

【様式】

令和 3年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 桑名工業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○ 生徒・教職員が一体となり、生き活きとした活気あふれる学校	
(2)	育みたい児童生徒像	○ 「挨拶・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)が徹底され、授業はもちろん、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組んでいる。 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、「桑名版デュアルシステム」や「インターンシップ」を有効に活用し、人間性豊かな専門的職業人を目指している。
	ありたい教職員像	○ 教科指導とキャリア教育の充実に向けて、和を尊びチーム桑名工業の一員として意欲的に取り組む教職員集団。 ○ 失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続けられる教職員。 ○ 生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない教職員。 ○ 資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組める教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 進路実現、充実した学校生活</p> <p>&lt;保護者&gt; 生徒の進路実現、基本的な生活習慣の確立、人間性豊かな人格の形成</p> <p>&lt;地域、地元企業等&gt; 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;保護者、中学校関係者&gt; 情報共有、連携、協働</p> <p>&lt;地域、地元企業等&gt; 地域で活躍できる人材育成</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;保護者、中学校関係者&gt; 本校教育活動への理解、協力、情報共有</p> <p>&lt;地域、地元企業等&gt; 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>社会がこれまでの安定期から変化の時代が変わった。このことにより人材育成について</p> <p>○ 「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成する。</p> <p>○ IT社会の中「正しい情報を見極める力」と行動力をもった生徒の人材の育成。</p> <p>○ 少子高齢化の中で若い世代にもものづくりへの興味を持たせる取組み。</p> <p>○ 学校で学習している内容をもっとアピールすべき。成果発表会の公開</p> <p>○ アジアの中でもものづくりを継承できる人材が求められています。</p> <p>○ 海外インターンシップや他校等の交流など様々な経験を生徒に積ませてほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>桑名工業三原則、コース選択のためのガイダンスや個人面談の実施、キャリア教育、進路シミュレーションなどきめ細かい指導は、問題行動の減少や進路実現に繋がっている。</p> <p>○ 成果発表会での地元中学へのPRの発信</p> <p>○ コース選択において、興味関心や将来の進路より友人関係を優先させる生徒がいる。</p> <p>○ キャリア探究コースの発展に努める。</p> <p>○ より高度な資格へ挑戦できる指導体制の充実とクラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>○ ICT教育の充実を図り、正しい情報の収集と選択ができるよう学びの場を広げる。</p>
	学校運営等	<p>○ 地域と歩むものづくりに基づき、地域の思いに応じた情報発信を積極的に行い、地域から愛され信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>○ 工作機械が進化し、機械図面などこれまでの二次元から三次元への対応が必要。</p> <p>○ 実習・インターンシップ・学校行事等、生徒が主体的に計画、実行できるよう生徒自身が行動できるよう指導す。</p> <p>○ 本校の教育活動の先進的取組として、Wi-Fiを整備し、オンライン学習に対応できるための職員研修を充実させる。</p> <p>○ 授業でのICTの活用を多く取り入れ、総勤務時間の縮減に取り組む。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりと、桑名工業三原則の堅持に努める。</li> <li>2. キャリア教育を推進しデュアルシステムを通じ、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。</li> <li>3. ものづくりを通じ地域社会での発展を担う職業人として、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。</li> <li>4. 基礎学力の定着と向上に努め、工業高校での指導者育成に努める</li> <li>5. グローバル人材育成のため、海外インターンシップに積極的に取り組む。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報共有と連携」をキーワードに、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。</li> <li>2. 生徒と真摯に向き合い、コンプライアンスの遵守に努め、指導に専念できる明るい環境づくりに取り組みます。</li> <li>3. Wi-Fiの整備を早急に取組み、Google for education のクラウド学習の充実を図り、総勤務時間の縮減に努める。</li> </ol>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業づくりと、桑名工業三原則の堅持	<p>(1) 魅力ある授業づくりのため、教材、指導方法について教員間で情報交換を行い授業力の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】 授業満足度調査を実施します。</p> <p>【成果指標】 満足度80%以上。</p> <p>(2) 命の大切さに関する取組を実施します。</p> <p>【活動指標】 LHRや面談で実施します。</p> <p>【成果指標】 LHR1回以上。</p> <p>(3) ICT教育における更なる質の向上に向けた取組を実施します。</p> <p>【活動指標】 全教科でICT教育の取り入れ、設備の整備。</p> <p>【成果指標】 職員の時間短縮と授業の効率化。</p> <p>(4) 桑名工業三原則を堅持します。</p> <p>【活動指標】 桑名工業三原則の意義を理解させる取組を行います。理解しているか、実行できているか確認のアンケートを実施します。</p> <p>【成果指標】 生徒が理解して、実行できている状態が80%。</p>	<p>(1) 校内での課題研究発表会を通じ、各科内で情報交換や指導方法の共有理解に努め、今後の授業力の向上につなげることができた。</p> <p>授業・実習満足度アンケートについてはGoogleフォームを活用し多くの意見が寄せられるように感じる。「授業や実習に満足していますか」の質問には96%の満足回答が得られた。</p> <p>(2) コロナ禍での開催であったが性教育講座の中で生命の誕生と人生設計及び神秘的な生命の誕生を通じた命の大切さを知り、心の教育にもつながる指導ができた。</p> <p>(3) 昨年からのタブレットの活用により、第5波・第6波と新型コロナウイルス感染の影響による急な閉鎖や学年閉鎖などの緊急事態にも対応できるような状況になった。</p> <p>(4) あいさつ・身だしなみ・きれいな学校の三原則については来校される企業をはじめ多くの方々に「しっかり挨拶が出来て、気持ちのいい学校ですね」とうれしいお言葉をいただくことが多くなった。身だしなみについては頭髮指導を見直し、現代社会にあった基準へと変更した。</p>	◎ ※
キャリア教育	<p>(1) 生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。</p> <p>【活動指標】 ・コースガイダンス(2回)、系ガイダンス、実習見学会(2回)コース選択面談(4回)を実施します。</p> <p>【成果指標】 ・生徒のコース選択満足度100%。</p> <p>(2) デュアルシステム受入企業(パートナーズ)の新規開拓を目指します。</p> <p>【活動指標】 ・企業訪問の回数を増やします。</p> <p>【成果指標】 ・新規開拓企業5社。</p>	<p>(1) コース選択については、今年度から学年主任がコース長となり取り組んだ。予定通り、2回のガイダンス各系のガイダンス、コースガイダンスを実施し、希望とコースの特徴にずれがないよう行った。今年度については昨年より多くのキャリア探究コース希望者がおり年々人気も上がっている。</p> <p>(2) デュアルシステムの実習について来年度からカリキュラムの改定により2年次に2社の実習を行うことになり、企業訪問についても社会の実情に合わせ、Web会議などの活用で改革していく必要がある。今年度のデュアル系への就職は3割にとどまり、各企業との連携と共に地域活性化と地元就職に繋げ、活躍できる人材育成に努めたい。新規開拓については目標の15社の開拓ができた。</p>	◎ ※
海外インターン	<p>(1) 生徒の国際的視野を広げるとともに、グローバルな舞台で活躍する人材を育成します。</p> <p>【活動指標】 ・海外インターンシップや海外研修等の案内を行い参加を呼びかけます。</p> <p>【成果指標】 ・2名以上。</p>	<p>(1) 近年の新型コロナウイルス感染拡大に伴い高大連携・海外企業とのインターンシップについては海外渡航に制限があるため困難な状況にある。Webを使って海外との連携を図っていくことも必要だが、時差の関係もあり実現できていない。</p>	

#### 改善課題

◎コンプライアンスについては指導中に起こる暴言について意識向上させるための研修を行う必要がある。

○ICT教育の準備と研修に情報班の負担が大きくなるように職員全体で取り組む必要がある。

○オンライン授業の開始にあたり、3年度入学生からiPadを取り入れ、先行してICT教育への取り組みを始めた。手探りの状況での開始であったが早くから始めることで課題解決に向けての対応がスムーズに行えた。

○前年度の課題であった「安心メール」への登録についてはGoogle class roomからの連絡との併用でスムーズ行うことができた。また、これまでの様々なアンケートについては紙ベースからICTを利用した手法に変更することで集計も簡単にできるようになり、時間短縮にもつながることができた。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。  
 (例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
 また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。  
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。  
 【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携	<p>(1) 教職員間での情報共有、および服務規律について。                      【活動指標】                      ・チーム桑名工業で取組み、コンプライアンス委員会を立ち上げ、自分事として捉えられるよう職員間での小グループ体制でコンプライアンスミーティングを開催する。                      【成果指標】                      ・各分掌や学年で学期ごとに1回以上。</p> <p>(2) 地域や保護者への情報発信への取組について。                      【活動指標】                      ・桑工安心メールの登録数を増加します。                      ・ホームページの内容を充実させます。                      【成果指標】                      ・保護者の登録90%、生徒の登録80%。</p> <p>(3) 報道機関への資料提供について                      【活動指標】                      ・資料の提供については透明性をもって対応に努める。                      ・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、活動の充実を図る。                      【成果指標】                      ・HP・安心メール、Google classroomなど活用し、保護者・地域住民への提供に努める。</p>	<p>(1) 職員会議での事項書などにコンプライアンスに係る紹介と職員会議後のミニコンプライアンス研修を行い意識の向上につなげた。</p> <p>(2) 昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため桑名工業高等学校成果発表会などWebでの公開となった。また、文化祭・体育祭についても外部の招待もなく本校だけで行こととした。学校行事についてはすべて実施することができた。(ホームページにて公開中)</p> <p>(3) 資料・情報提供についてはHP・安心メール、Google classroomなど活用し、新型コロナ感染状況や授業実施状況等、職員・保護者・生徒に向けて情報提供することができた。</p>	◎
総勤務時間の縮減	<p>(1) 時間外労働時間の縮減を目指し、特別な場合を除き、時間外労働時間を年360時間(月平均30時間)月45時間を超えないことに努める。                      【活動指標】                      ・職員一人当たり月4時間縮減                      【成果指標】                      ・一人当たりの月平均時間外労働…28時間以内                      ・年間360時間を超える時間外労働者数…0人                      ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数…0人</p> <p>(2) 休暇取得促進として、総勤務時間縮減を進め、休暇の取りやすい環境づくりと定時退校日を定める。                      【活動指標】                      ・定時退校日を年間で20日程度定める。                      ・学校閉校日については2日以上定める。                      【成果指標】                      ・設定した日の定時に退校できた職員の割合…95%以上                      ・一人当たりの休暇取得日数…17日以上</p> <p>(3) 部活動について、一週間(土日を含む)のうち生徒、顧問ともに休養日の設定を設けます。                      【活動指標】                      ・考査中等は多く取り入れ、週1日以上設定する。                      【成果指標】                      ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合…100%</p> <p>(4) 会議スマートルールを参考に会議時間の短縮を図る。                      【活動指標】                      ・会議の時間は1時間以内                      【成果指標】                      ・放課後に開催して60分以内に終了した委員会等を含む会議の割合…90%以上</p>	<p>(1) 職員一人当たり約5時間縮減                      ・ R2 8.9時間 R3 9.4時間                      8.9-9.4=1.5時間増                      昨年度は臨時休校に伴い過重労働報告0時間の期間があったが今年度は臨時休校のない状態での結果である。例年に比べ比較的少ない状況にある。                      ・ R2 月100時間超 2人 80時間以上 5人                      ・ 月45時間超 19人                      ・ R3 月100時間超 0人 80時間以上 9人                      ・ 月45時間超 22人                      時間外労働については特定の職員に偏る傾向にあったが、偏りは解消できた。その分全体的に増加の傾向が見られた。日頃の健康管理も含め1日当たり1時間の削減に取り組めるよう面談指導を行った。</p> <p>(2) 休暇について                      令和元年度 職員一人当たり約16.3日取得                      令和2年度 職員一人当たり約17.7日取得                      令和3年度 職員一人当たり約20.9日取得                      ・定時退校日・・・月1日または2日                      ・退校できた職員の割合85%</p> <p>(3) 部活動休養日                      休養日が設定できた部活動 100%</p> <p>(4) スマート会議年間15回設定平均95.5%実施できた。昨年度比較+2.0%down</p>	※

改善課題

- コンプライアンスを向上させるために学期ごとに小グループでの研修を行う。
- ICT教育の進展により、情報の共有・連絡などの配信への取組を向上させる。それに伴い総勤務時間縮減に向けて意識改革をさせる。
- 定時退校日の完全定時退校を増やす。
- 授業でのタブレット活用方法の紹介を促す。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

社会がこれまでの安定期から変化の時代になり、社会での働き方も変化してきている。このことにより人材育成について①「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成する。②IT社会の中「正しい情報を見極める力」と行動力をもった生徒の人材の育成。③少子高齢化の中で若い世代に「ものづくり」に対する興味関心のきっかけ作り。④コンプライアンス委員会を活性化し職員全体で意識改革と醸成を図る。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

これからの工業教育のみならず、学校を取り巻く環境はコロナ禍の中大きく変化し、働き方もICTを中心に大きく変化している。教育界についてもブラック校則の見直しをはじめ、職員の意識改革を図るとともに、学習方法の新たな展開を見出す必要がある。これまでの伝統をいかしつつ、近代工業のリーダーシップの育成を目指す。